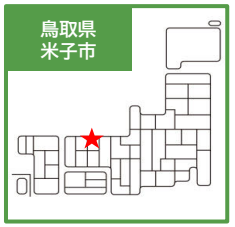
88 NPO法人　ライヴ（鳥取県米子市）

2024チャレンジ賞

地域の漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負から水産加工品製造・販売への転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。

福祉事業所



基本情報

設立：H23年/農福連携取組開始：H23年

概要

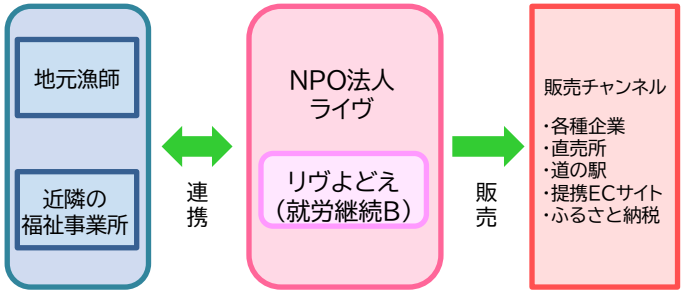
主力商品

（水産加工品）板わかめ、乾燥ひじき、乾燥ホタルイカ

特徴的な取組

水福連携

体制図



TEL：0859-56-5789/Mail：info@live-y.jp
URL：https://live-y.jp

きっかけ

H23年

利用者の能力を生かせる仕事がないかと探していた時、地元の漁業者からわかめ干し作業を手伝って欲しいと依頼があり海藻を乾燥加工する水福連携の活動を開始。

取組

人を耕す

- 開始当初はわかめ干し作業の請負作業が売上の中心だったものを、自分たちで行う水産加工品の製造・販売にシフトすることで売上高が100倍以上に増加。
- 様々な決め事に際して職員が利用者に伝えるだけでなく、随時ミーティングを開き、今している作業は何のための作業なのかを説明してもらうことで自主性を育成。

地域を耕す

- 主力商品の「板わかめ」は山陰地方の名産であるが、製造所が減少しており、地域の漁業者から製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の継承に寄与。
- 地域の漁協からの提案をきっかけに、地域で初めて採れるようになったひじきを原料にした新商品「乾燥ひじき」を開発し、販売を開始するなど地域水産業の維持に貢献。

未来を耕す

- 添加物を一切使用せず、素材の風味を大切にした商品づくりを実施。
- 新設した水産加工施設では、他の福祉事業所の利用者に、水産加工作業の一部を委託することで、連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大。

成果

平均工賃月額	水産加工に関わる障害者数	売上高	―
15,700円（H23） →29,054円（R5）	6人（H23） →23人（R5）	8万円（H23） →851万円（R5）	

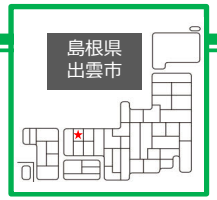
- 職員のサポートなしで完全に製造を任せることのできる利用者もおり、県平均を大きく上回る月5万円以上の工賃を実現。
- 地域の奉仕作業への参加や、特別支援学校や中学校等の職業体験の受入れ等により、地域との交流や活性化に寄与。
- 水福連携の取組が地域の新聞やニュースで掲載。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1

89 社会福祉法人 喜和会　障害者支援施設 太陽の里

視察受入れ：要相談　報道機関受入れ：要相談



農業は、作業内容を細分化することで重度の障害者にも作業提供が可能であり、施設利用者が「地域の一員として、一人一人が輝ける」ことを目的に活動を実施。

基本情報

- 所在地：島根県出雲市
- 団体名：社会福祉法人喜和会
  障害者支援施設　太陽の里
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020
  優秀賞
  令和２年度ディスカバー農山漁村の宝 農林水産省 奨励賞
- 主力商品：たまねぎ、キャベツ、白ねぎ、
  トマトのミックスソース、味噌
- 取得認証等：なし

取組の概要

○就労継続支援Ｂ型事業所

- 「農産班」では、地域振興作物（たまねぎ、キャベツ、白ねぎ等）の生産拡大に精力的に取り組んでおり、ほぼ全量を地元JAに出荷し、産地の維持・発展に貢献しているほか、地域特産の「出西生姜」の生産を農家から引継ぎ、産地維持に貢献。
- 「食品加工班（６次産業化）」では、トマトのミックスソースや味噌等の加工品製造および販売を実施。
- 「作業請負班」では、せわやき隊と称し、高齢農家や大規模農業法人の農作業請負を実施。

○生活介護

- 就労継続支援B型事業所から野菜の調整・出荷作業等を受託。給食用野菜を栽培のほか、野菜の袋詰め、洗浄、調整等を実施。

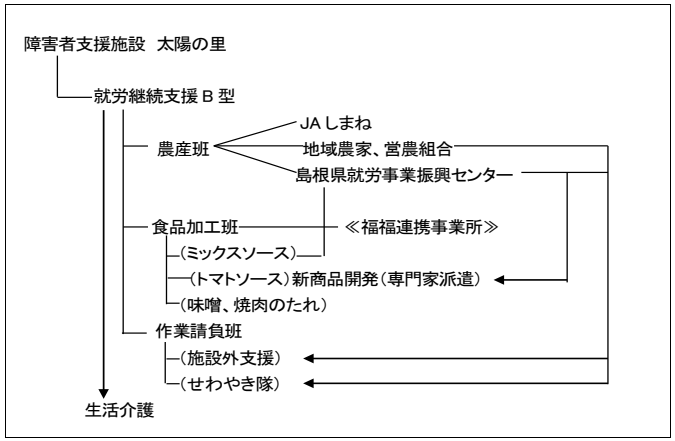
加工品

ほ場での作業風景

トマトのミックスソースの製造

生活介護利用者の収穫風景

体制図



取組の成果

○受託農地の拡大に伴い栽培品目及び面積を拡大。たまねぎ110a、キャベツ80a及び白ねぎ30aを栽培するなど、産地の維持・発展に貢献。
○せわやき隊の活動では農作業請負のほか、庭の草取りや用水路掃除など地域との連携を図っており、高い評価を受けている。
○令和4年の平均工賃月額は25,785円と、県平均（20,141円）を上回っており、月額70,000円を超える工賃を実現している利用者もいる。
○収穫祭（太陽の里まつり）には、地域より毎年600名以上の来園者があり、地域交流の一翼を担っている。

所在地▶島根県出雲市斐川町名島90番地
連絡先▶TEL：0853-72-9125　E-mail：kiwakai2@bridge.ocn.ne.jp
ウェブサイト▶http://taiyounosato.or.jp/

【取組のプロセス】

昭和61年

・下請作業はバブル崩壊後、衰退
・JA野菜部会に加入し、玉ねぎ栽培の指導を受け、取り組む

平成21年

・太陽の里の農業が地域から認められ農地引き受けが増え、生産拡大につながる
・地域の転作を補う

平成26年

・農福連携補助金を活用し、機械、鍋の整備、金属除去器を導入
・農地や農産物の拡大により産地交付金を受ける
・赤い羽根共同募金により、白ねぎ根切り皮剥ぎ機を導入

平成28年

・肥料高騰により水田への堆肥散布の依頼が増えるなど、せわやき隊の受託件数が増加
・ゆめいくワークサポート事業を活用してマニュアスプレッダーを導入
・個人農家、農事組合法人との連携により多くの利用者が参加

今後の展望

きっかけ

県内でも有数の農業地帯であるにも関わらず、高齢化や担い手不足に伴い、地元農家に農作業の手伝いを依頼されることが多くなったことから、本格的に農福連携の取組を実施

農福連携の取組を開始

○ 昭和61年、知的障害者授産施設「太陽の里」を設立し、「農耕班」・「木工班」・「下請班」に分かれ作業を実施。

○ 平成21年、新事業体系に移行、障害者支援施設太陽の里（施設入所支援、生活介護、就労継続支援Ｂ型事業所）としてスタート。

○ 平成24年、農業以外の作業（木工、下請）をやめ、就労継続支援Ｂ型の活動を農業に特化したことで、栽培品目・耕作面積が増加。

せわやき隊の活動開始

○ 平成26年、ＪＡ斐川を通じて、地域の全世帯にせわやき隊（農作業受託）のチラシを配布。

○ 平成27年、キャベツ、白ねぎの作業受託（収穫～出荷）を実施。

福祉事業所の連携（５事業所）により、トマトのミックスソース加工数量が拡大。

視察の受入れ、情報発信

○ 平成28年、県内外から農福連携に関する視察受入れが増加。

○ 平成30年、農業新聞、NOSAI通信、月刊誌（さぽーと）取材などにより情報発信。

効率化、新商品の開発

○ 令和元年、受託農地を事業所周辺に集約（農地中間管理機構仲介）。

○ 令和２年、職種を超えた若手職員チームがヘルシー志向のトマトソースを新たに開発。

○ 令和５年、トマトソースのインターネット販売を開始。

初代施設長の思いをつないで

○ 「職員が作業環境や工程を工夫することで、障害を持った方々が活躍する仕事はきっとある。」この思いをもとに「障害を持った人たちに就労の場を！」を目指す。

せわやき隊の作業内容

せわやき隊による堆肥広げ

白ねぎの収穫

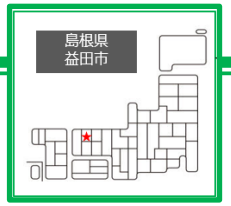
トマトソース開発チーム

就労継続支援B型事業所利用者の集合写真

更新年度：R5

90 社会医療法人正光会 さんさん牧場

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



「いつでも、だれでも、等しく陽の当たる場所」と言うコンセプトのもと、馬と障害者が支え合って農業を介して地域に貢献。

基本情報

- 所在地：島根県益田市
- 団体名：社会医療法人 正光会
  さんさん牧場
- 選定表彰：
  - ・ノウフク・アワード2021
    チャレンジ賞
  - ・令和４年度ディスカバー農山漁村の宝
    中国四国地区　局長賞
- 主力商品：ミニトマト、きゅうり、細ねぎ、こまつな、たまねぎ、かぼちゃ、グラスジェムコーン、バタフライピー、マイクロトマト等
- 取得認証等：－

取組の概要

○就労継続支援A型事業所として精神、知的、発達、身体障害者の計19名が、本人の希望、体調やそれぞれの特性、習熟度を考慮して観光牧場で飼育している動物の飼育、ハウスや露地での農作業に従事。

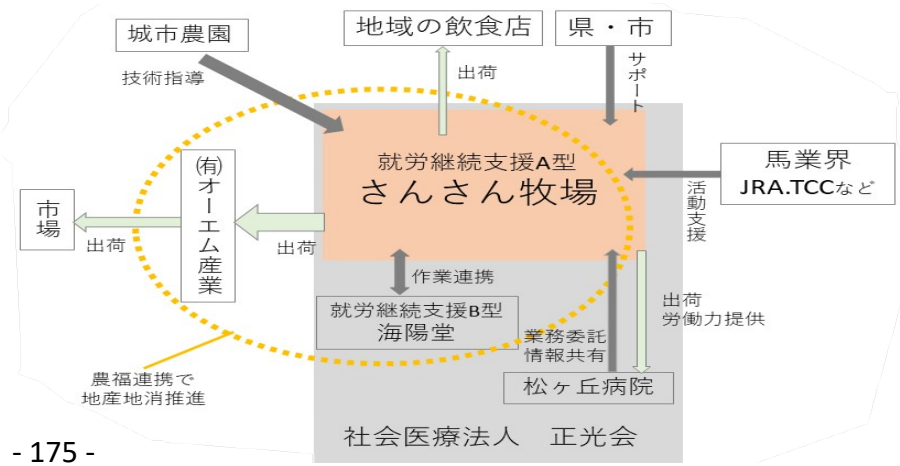
○牧場では、引退競走馬４頭を含む馬９頭、うさぎ10羽、ヤギ１頭を飼育。引退競争馬の貴重な受け入れ先として、JRAからの支援を受けており、引退競走馬はアニマルセラピー馬や乗用馬として活躍。

○障害者と動物との関わりはアニマルセラピーに繋がるほか、「進め・止まれ」など、馬を制御することはコミュニケーションが苦手な障害者にとって意思を伝える訓練となっている。また。牧場は、高校の課題探求学習、高齢者介護予防、末期がん患者のセラピー等としても活用されている。

○５aのハウス・露地のほか、青果卸売会社の農地（ハウス20a）も借り受け、耕作を実施。農産物は牧場で店頭販売するほか、地元のイタリアンやフレンチ等の高級レストランへ販売。

○馬ふんを堆肥化し、農産物を生産する循環型農業に取り組む。

体制図



取組の成果

○地域の観光協会と連携し、甲冑着用で海岸乗馬ができる体験プログラムを実施するなど、地域の観光業に貢献。

○地域の学校等の実習・研修を積極的に受け入れるなど、アニマルセラピーや農福連携について、積極的に情報発信を実施。

○流鏑馬や神事で中国地方各地に出向くことで、引退競争馬が活躍できる場が増加するとともに、障害者の社会への接点も増えたことで一般就労につながっている。

所在地▶島根県益田市高津三丁目２２－１
連絡先▶TEL:0856-31-1377　E-mail: info@sansanfarm.jp
ウェブサイト▶http://www.sansanfarm.jp

【取組のプロセス】

きっかけ

益田市馬事公苑が老朽化のため廃止となり地域住民からの「ホースセラピーを残してほしい」との声を受け止け、さんさん牧場を設立し、観光牧場などとして運営を開始

平成30年

市内には就労継続支援A型事業所が2か所しかなく障害者の働く場所、仕事の選択肢が少ない状況

平成31年

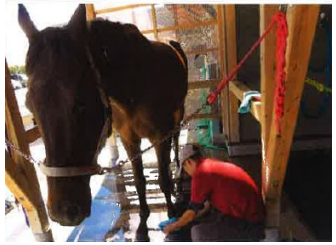
利用者５名で活動をスタート

利用者が９名に増加

就労継続支援Ａ型事業所さんさん牧場をオープン

○ 観光牧場事業をスタート。敷地内にグループホームを併設。

○ 放課後デイサービスや近隣校の子どもたち、高齢者などにホースセラピーを実施。



馬の手入れ

令和2年

農業で売上げを初めて記録

農福連携をスタート

○ 利用者数の増加に伴い、さらなる仕事づくりが必要になったことや、飼育中に出る馬ふんを活用するため、農地（ハウス３a・露地２a）を借り、農業を開始。

○ 東京農業大学の乗馬療法の研究に毎年協力。

きゅうりの仕立て作業

令和3年

利用者が17名に増加

利用者が17名に増加

令和３年度「島根県障がい者就労支援事業所設備整備補助金」を活用し、トラクターや、冷蔵庫、乾燥機を整備

事業の拡大

○ 青果卸売会社が耕作していた農地（ハウス２棟20a）を借りて耕作を開始。正光会が運営する就労継続支援B型事業所「海陽堂」とも連携。

○ 敷地内にカフェをオープンし利用者の多様な訓練の実施が可能。

○「令和３年度益田市商品開発補助金」を活用し、バタフライピーの商品化を実施。

馬ふん堆肥散布

今後の展望

12,000人を超える来場者の居場所づくりと利用者の訓練の場として敷地内にカフェをオープン

障害者も健常者も馬も「誰もが生きやすい社会」を目指す

○ 「馬・福祉・農業」の更なる繁栄。

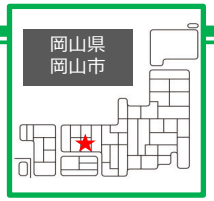
○ 馬の飼育→馬糞堆肥→作物生産→収益→馬の飼育　循環型社会の更なる飛躍。

ハウス内作業（ミニトマト）

更新年度:R5

91 株式会社おおもり農園

視察受入れ：　可　　報道機関受入れ：可



新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大するとともに、利用者の将来の就農を目指す。

基本情報

- 所在地：岡山県岡山市
- 団体名：株式会社おおもり農園
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023優秀賞
- 主力商品：いちご・冷凍いちご／香料・着色料不使用のカクテル用シロップ／業務用いちごピューレなど
- 取得認証等：ノウフクJAS（令和３年取得）、認定農業者

取組の概要

○平成14年にいちご農家として新規就農し、平成23年にはNPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。現在、障害者約18名の内６名から10名が施設外就労でいちご栽培等を行う。

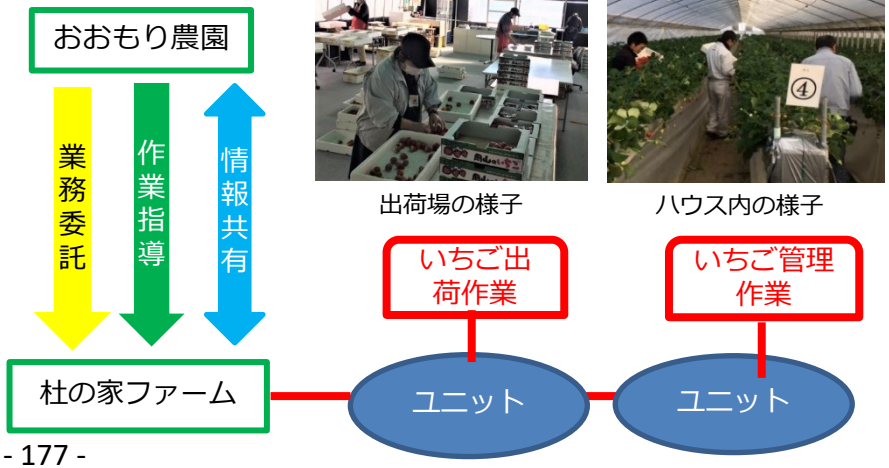
○いちごは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、育苗から収穫までの期間に障害者の特性に応じた作業を振り分けることで、苗の生産から株の手入れや防除も行うことが可能となり、規模拡大と労働時間の短縮を実現。

収穫前のいちご

いちご植え付け作業

パック詰めされたいちご

体制図



出荷場の様子

ハウス内の様子

取組の成果

○自らが障害福祉サービス事業所を設立することで、作業者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。休日を取得できるようになった。

○経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。

○作業の見える化によって、異常発生時の問題点が明確になり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。

○いちご栽培の安定的な請負とその他の施設外就労との組み合せにより、令和４年度の平均賃金月額は88,000円を超え、県内就労継続支援A型事業所の平均（86,271円）を上回る。

所在地▶岡山市中区兼基111-1
連絡先▶TEL: 086-279-8391　E-mail: info@npomori.com
ウェブサイト▶ https://omorifarm.jp/

【取組のプロセス】

きっかけ

中国四国農政局主催のシンポジウム「クローズアップ農の福祉力」に参加し、障害者の受入れを決意

平成14年

小さな農家は親の介護や自身の体調不良で栽培規模の縮小や経営そのものの存続が難しいことを実感

農業の開始

○ 平成14年　岡山市中区にいちごハウス10aを竣工し、兼業農家として事業開始。

○ 平成15年　いちごと葉物野菜で専業農家となる。

いちご苗の手入れを行う利用者

平成21年

農林水産省　都市農業機能発揮対策事業・福祉農園地域支援事業の活用

農福連携を開始

○ 平成21年　障害者施設より施設外就労の受入を始める。

○ 平成23年　就労継続支援A型事業所杜の家ファームとして障害者雇用を開始。

いちご株管理を行う利用者

令和元年

平成30年
西日本豪雨災害

令和３年度
日本農林規格ノウフクJASを取得

いちご農家として地域の農地を受け入れ

○ 平成27年　高齢による離農いちご農家施設受け入れ。

○ 平成28年　都市農村機能発揮対策事業及び福祉農園地域支援事業によるいちご栽培施設完成。

○ 平成30年　西日本豪雨により被災し、一部復旧を断念、コロナ禍により葉物野菜生産から撤退。

○ 令和３年　いちごでのノウフクJAS取得。

○ 令和４年　新たに取得した荒廃農地を開墾し経営規模を拡大。

音声選別機による選果作業

今後の展望

将来の地域農業の後継者を育てる

○ 障害者にはただ作業をしてもらうだけでなく、将来の地域農業の後継者になれるよう様々な農業技術について指導を実施。

○ 農福連携の活動を多くの方に知ってもらうことで農業の発展に寄与したいと考えている。

パック詰め作業

更新年度:R5

92 株式会社　八天堂ファーム（広島県三原市）

2024準グランプリ（未来）

障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、果樹栽培、他の事業者の農福連携産品も含めた商品開発、加工・販売など、「商工農福連携」を目指した取組を実施。

基本情報

設立：R4年/農福連携取組開始：R3年

取得認証等：ノウフクJAS

概要

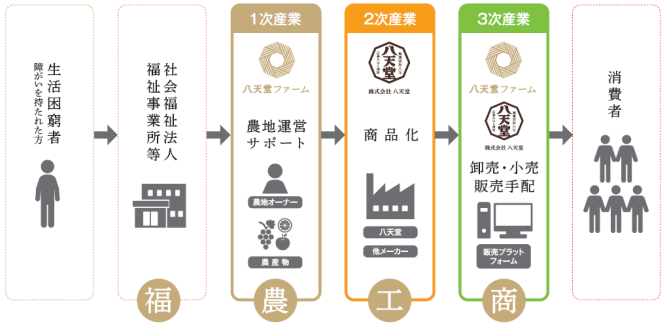
主力商品

（農作物）ぶどう、いちじく
（加工品）くりーむパン、バターサンドウィッチ

特徴的な取組

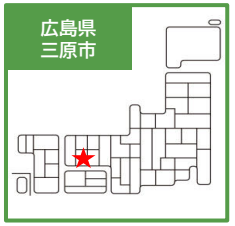
環境保全型農業

体制図



TEL：0848-62-2645/Mail：y_hayashi@hattendofarm.co.jp
URL：https://hattendofarm.co.jp

農業経営体



きっかけ

R3年

R3年に社会福祉法人宗越福祉会と共に耕作放棄されたぶどう園を受け継ぎ、生活困窮者（障害者含む）の自立支援を目指した農福連携型就労訓練事業を開始。

取組

人を耕す

- 生活困窮者には県の最低賃金以上の給与を支払い、自立支援を図るほか、特性に応じた働き方を提供し、多様な支援環境を整備。
- 宗越福祉会、広島県立黒瀬高校、八天堂ファームで協定を締結。生活困窮者の予備軍である若者には教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す活動をR5年から開始。

地域を耕す

- R4年から地域のスーパーでぶどう販売を開始。収穫量は4,000房（R3）から14,000房（R6）に増加し、R6年は4つのスーパーで販売。
- 地域高齢者の雇用、障害者による選果や包装のほか、県立三原特別支援学校との商品開発や、高校生のボランティアの受入れも実施。

未来を耕す

- 「ノウフクの理念の啓蒙・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携産品を活用してジャムや「くりーむパン」を開発し、商品開発や販路拡大に取り組む。ノウフクJASを取得。
- R6年に広島県と3市（三原市、竹原市、東広島市）と連携して、「農福コンソーシアムひろしま」を立上げ。

成果

障害者等の賃金	農作業に関わる障害者数	農地面積	コンソーシアム加盟事業者
時給900円（R3） →時給1,020円（R6）	4人（R6）	81.29a（R5）	7事業者（R6）

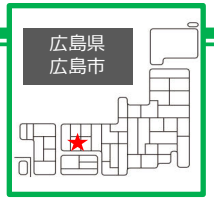
- ひきこもりの状態にある者がほ場での勤務をきっかけに運転免許を取得するなど、行動が変化。
- 農福連携産品を活用した「バターサンドウィッチ」を開発し、「ナチュラルローソン」で販売されるなど、積極的に販路を開拓。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1

93 広島県立広島特別支援学校

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



農作業を学ぶだけでなく、地域に貢献する体験を積み重ねることで自信や生きがいをもち、自立と社会参加を目指せるよう、地域との連携を通した協働的な学びの充実を図る。

基本情報

- 所在地：広島県広島市
- 団体名：広島県立広島特別支援学校
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
  準グランプリ「人を耕す」
- 主力商品：トマト、きゅうり、なす、ピーマン、さつまいも、大根、白菜、人参、小松菜
- 取得認証等：　ー

夏野菜の収穫

ひろとくファームの垂れ幕

取組の概要

○全ての年次の生徒が、自信や生きがいをもち、自立と社会参加を目指せることを目的にして、作業学習【農業】の授業において、学校内のほ場で農作業を実施。
○土ふるいや堆肥作りなどを行うため、撹拌機のある屋根付き小屋を整備し、作業棟には車いすの児童生徒が室内で安全に作業できる水耕栽培を設置している。
○地域の公民館と連携した野菜の販売や、近隣住民を対象に訪問販売（受注型）を実施。
○学校見学会等で来校される方々、近隣の小学校、インターナショナルスクールの児童による収穫体験を実施し、生徒が収穫や袋詰めの仕方を説明する場を設けている。
○県内の農業を専門とする高等学校と連携し、土壌調査を依頼するなど、生徒同士が学び合う場を設けているほか、近隣小学校の児童に農作業を教えている。

野菜販売の様子

農場の様子

水耕栽培施設

体制図

取組の成果

○農作業を通して、就労に必要な基本的な態度や意欲を身に付け、様々な職種への就労につながっている。
○公民館での販売や近隣への訪問販売では、地域貢献への意欲や社会参加への自信につながっている。
○収穫体験や小学校、高等学校との協働活動では、学んだことを発揮し、感謝されることで自己有用感の高まりにつながっている。

所在地▶ 広島県広島市安佐北区倉掛２丁目４７－１
連絡先▶TEL:082-843-1811　E-mail: hiroshima-sh@hiroshima-c.ed.jp
ウェブサイト▶https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/

【取組のプロセス】

きっかけ

自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労につなげてほしいという思いから農福連携の取組を開始

作業学習「農業」や生活単元学習等を通して、農作業に関する学習を行う

令和3年

農福連携の開始

○農福連携の取組から、障害のある児童生徒が地域に貢献できる体験を積み重ね、自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労にもつながってほしいという思いから、農福連携を開始。

作業の様子

訪問販売や公民館販売など従来から取り組んでいる内容を定着、充実させるとともに取組を広める

令和4年

地域社会との連携

○高齢化が進む地域で大根の訪問販売を行ったことが、高齢者の負担軽減だけでなく地域住民と生徒の交流の場につながり、地域課題の解決に向けた取組の一つとなった。

訪問販売の様子

「地域協働における農福連携の推進」をテーマに、関係機関を広げ、取組を深める

令和5年

連携の輪の広がり

○学校運営協議会を通して地域の様々な関係機関から助言を受け、農福連携の連携先や応援団になってもらうなど、連携の輪が広がり、地域を支えることができる人材として、自信や地域貢献への意欲につながっている。

収穫体験の様子

近隣の小学校の農作業の手伝いや収穫体験などを実施し、知識や技術を地域に還元する

今後の展望

様々な人、場所、方法で農福連携を広め、深めていく

○収穫体験や農作業を通して、地域に対して障害のある児童生徒や特別支援学校の取組について理解を図るとともに、農業に触れるきっかけを創出する。

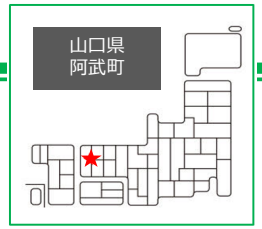
○農福連携を通して人とのつながりを増やすことで、児童生徒の雇用につなげる。

野菜販売の様子

更新年度:R5

94 社会福祉法人 E.G.F のんきな農場阿武事業所

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



障害者でも高品質なものを製造でき、農業の労働力になりえる。単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となると考え実践。

基本情報

- 所在地：山口県阿武町
- 団体名：社会福祉法人Ｅ.Ｇ.Ｆ
  のんきな農場阿武事業所
- 選定表彰：
  - ・ノウフク・アワード2022 優秀賞
  - ・平成27年 ディスカバー農山漁村の宝
    第２回全国選定 プロデュース賞
    （主催：農林水産省）
  - ・平成30年 地産地消活動優良活動表彰
    優秀事例（主催：共同通信社）　他
- 主力商品：冷凍ボイルカット野菜
- 取得認証等：認定農業者、６次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定事業者

取組の概要

○知的、精神、発達障害者など30名でいちご、メロンの栽培（2.5ha）のほか、冷凍ボイルカット野菜を製造するなど、６次産業化に取り組んでおり、近隣農家からも規格外野菜を仕入れ、加工品として販売。

○障害者が育てた野菜（特に規格外野菜）を使用した商品を主に山口県学校給食会へ販売しており、県内のほぼ全ての小・中学校で使用されている。

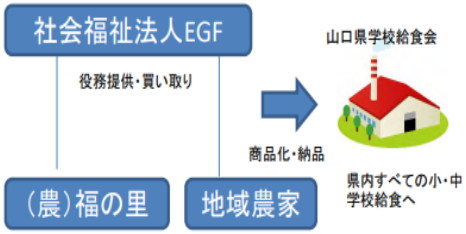
○農事組合法人福の里から田植え（130ha）の際のハウスからの苗出し・田植機への苗の受け渡し・苗箱洗浄のほか、除草作業の一部などを受託。

○農事組合法人福の里と連携した共同商品の開発のほか、一部の水稲を障害者が架干しすることで、付加価値の高い天日干し米の販売も実施。

○社会福祉法人として全国で初めて６次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定事業者（以下、６次産業化認定事業者）となる。

○令和５年度からは、広島少年院との連携を開始。広島少年院では、職業指導の一環として製品企画科「アグリコース」が設置されており、在院者が野菜の栽培や販売等も実施していることから、E.G.F職員が、在院者に対して農業技術指導や、職業講話を実施。

体制図



稲架干し※稲扱ぎ作業

田植え機への苗箱補充作業

取組の成果

○規格外野菜の仕入れや農作業を受託することにより、農家の所得向上・作業負荷の軽減に寄与。

○学校給食への食材提供をすることで、県産野菜使用率の向上や食育・地産地消の推進に貢献しているほか、地域の小学校の視察を受け入れることで児童への障害福祉の理解促進に寄与。

○令和５年の平均工賃月額は約16,000円であり、県平均を上回る。工賃月額が40,000円を超える利用者もおり、当該利用者は責任者として従事。

所在地▶山口県阿武郡阿武町福田上1326
連絡先▶TEL:08388-5-0050　E-mail:egf@Athena.ocn.ne.jp
ウェブサイト▶http://e-g-f.jp/

【取組のプロセス】

きっかけ

事業所として生産者となることで農業の持続化が可能となる。
障害者が高品質な物を製造する。

平成20年

NPO法人として就労継続支援B型事業所のんきな農場を開設

○ 平成22年、社会福祉法人の認可を取得し、社会福祉法人Ｅ.Ｇ.Ｆ設立。

○ 平成26年、６次産業化認定事業者となる。

平成22年

全国で初めて社会福祉法人が６次産業化認定事業者となり、全国から視察が増加

６次産業化スタート

○ 平成28年、のんきな農場阿武事業所（就労継続支援Ｂ型事業所）を開設。６次産業化認定事業者として、６次産業化・農福連携に取り組む。

○ ６次産業化ネットワーク交付金事業が大幅減額になったが、事業の重要性と継続性から民間借り入れを増額し、実施。

平成28年

６次産業化ネットワーク交付金事業の活用

地域の維持・発展に貢献

○ 令和２年に認定農業者として認定される。

○ 地域のほうれんそう農家からB級品の収穫依頼が激増し、Win-Winな関係性を構築。

○ 農事組合法人福の里との連携強化　田植え・草刈りと切っても切れない関係性。

令和元年

広島少年院との連携を開始

○ 令和５年８月、広島少年院にて、E.G.F職員から在院者に対して直接、農業技術指導を実施。また、少年院職員との意見交換を実施し、土壌改良等について助言。

○ 令和５年11月、広島少年院の全在院者に対して、 E.G.F総合施設長による農業講話を実施。農作業を通して、利用者が個性を活かして役割を見つけていることを伝える。

令和5年

県会議員や県内外のJA等から地元でかかえる問題解決のため視察が急増

今後の展望

地域の活性化と障害者の就労・居場所作り・社会参加の更なる拡大

○ 社会福祉法人E.G.Fの目指す農福連携とは、単なる農作業の請負ではなく、障害者が地域農業の継承者となること。

○ 農業だけでなく、温泉用ボイラーの薪製造の林福連携や、磯焼け対策のウニの養殖用の餌の提供などの水福連携の取組を試験的にスタートしている。

畦畔の草刈り作業

地元住民を招いての収穫体験

冷凍カット野菜洗浄作業

冷凍カット野菜製造作業

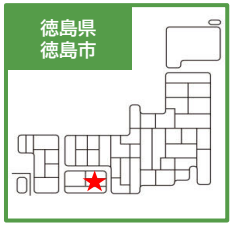
更新年度:R5

95 株式会社　菜々屋（徳島県徳島市）

2024グランプリ

農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、県内の各JAと連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。

農業経営体



基本情報

設立：H24年/農福連携取組開始：H27年

取得認証等：JGAP

概要

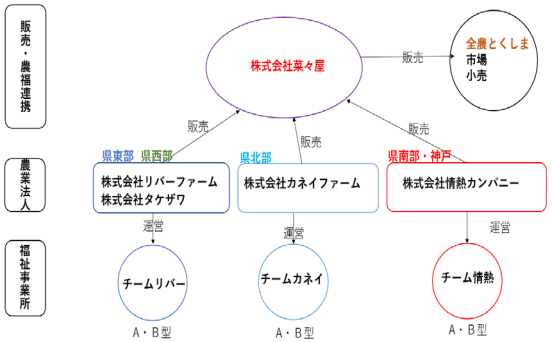
主力商品

（農作物）こまつな、ちんげんさい、なす、レタス　等

特徴的な取組

スマート農業

体制図



088-674-5627/nanaya.center@gmail.com/

https://nanaya-agri.com/

きっかけ

H27年

県内各地の農業の人手不足と福祉業界のマッチングを決意し、地域で働きたくても働けない障害者が働ける環境整備のため、農業に特化した障害者就労施設を設立。

取組

人を耕す

- 様々な農業現場での作業を通じて障害者が社会性を育み、一般就労を目指せるよう支援し、これまで41名が農業法人、JA等に一般就労。
- 農場長として働いていた障害者が露地野菜の農家として独立し、その後のサポートも実施。
- 障害者就労施設の利用者に対して、体力や特性に合わせて農作業を細分化するとともに、評価書（アセスメントシート）による評価を実施。利用者が安全に作業できるよう体調管理にも配慮。

地域を耕す

- 新規就農者や規模拡大をめざす農業法人から作業を受託して、障害者が収穫、徳島県のブランドさつまいも「なると金時」のパック詰め等を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
- 中山間地での「すだち」の収穫支援により、人手不足の解消に貢献。

未来を耕す

- 農業経営者ならではの知見を活かして、地域の様々な作物に関する作業委託に対して、作業の細分化と年間スケジュールの作成により、農福連携が円滑に実施できる仕組みづくりを実施。
- 障害者がコンバインによる収穫作業を行うなど新たな技術習得にもチャレンジ。
- 特別支援学校での農業体験授業や地域貢献活動としてボランティアや農産物の販売を実施。

成果

平均工賃月額	施設利用者数	売上高	農地面積
4,838円/人（H27） → 81,098円/人（R5）	31人（H27） →91人（R5）	3,000万円（H27） →15,782万円（R5）	31ha（H27） →63.4ha（R5） ※4社の総面積

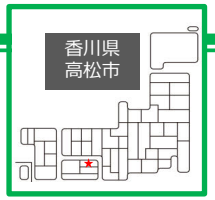
- 「なると金時」を栽培している農業法人で障害者が施設外就労し、年間40tの芋の皮むきを実施することで、生産量が13%増加。
- 徳島県からの出荷量が減っている「すだち」の植樹事業を開始し、荒廃農地の解消に貢献。
- 障害者が生産に携わった白なすをマレーシアに輸出。
- 障害者が生産に携わった野菜を加工し、祭りの屋台で販売するほか、弁当にして単身高齢者世帯への配達等も実施。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1

96 特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会

視察受入れ：可(要相談)　報道機関受入れ：可(要相談)



就労継続支援Ｂ型事業所の平均工賃が全国比より安価であったこと、農業者の高齢化が進み県内の農産物生産量の維持・拡大が困難であったことなどから、にんにく収穫作業への障害者の参画を推進。

基本情報

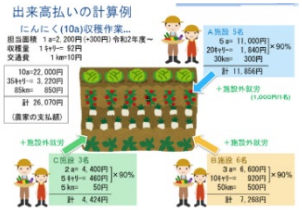
- 所在地：香川県高松市
- 団体名：特定非営利活動法人
  香川県社会就労センター協議会
- 選定表彰：令和元年 ディスカバー農山漁村の宝　中国四国地区　個人部門局長賞
  ノウフクアワード2020　審査員特別賞
- 主力商品：にんにく、たまねぎ、青ねぎ、アスパラガス、キャベツ、セロリ
- 取得認証等：ー

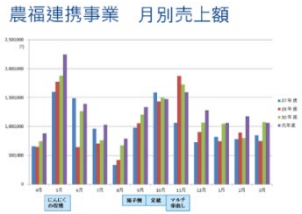
取組の概要

○就労センターは、毎月下旬に農家から翌月に福祉施設へ依頼したい作業内容、日程を確認し、募集文及びカレンダーを会員である施設へ送付。
○福祉施設は、農家毎にカレンダーの参加予定日の枠に作業人数・時間等を記入し、就労センターへ提出。就労センターは、スケジュールを調整し、マッチングが完了後、スケジュール表を農家及び福祉施設へ送付。
○福祉施設は、農家のほ場で作業を実施し、作業終了後、作業報告書を就労センターに提出。
○就労センターは、送付された作業報告書に出来高制で設定された工賃基準に従い工賃を記入し、福祉施設へ返送。就労センターは、農家と福祉施設間の代金の支払いの仲介も実施。

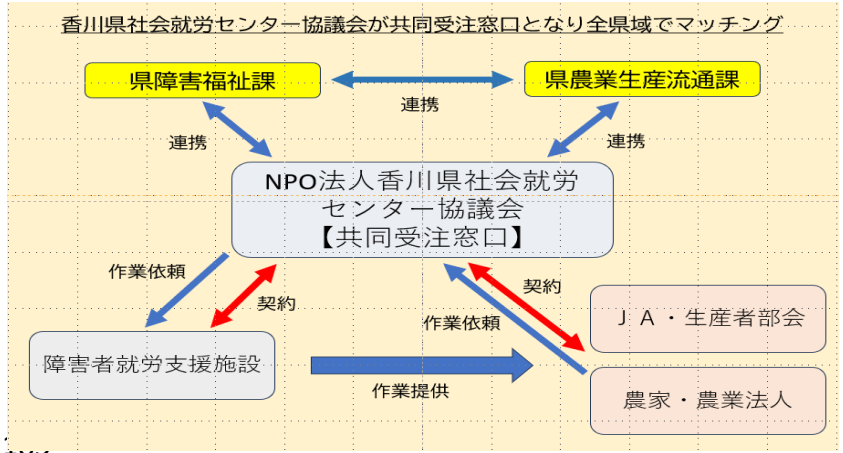
にんにくの収穫作業

さつまいもの毛むしり作業





体制図



取組の成果

○平成23年に共同受注制度が開始して以来、県内のJAやにんにく部会役員と協議を行い、にんにくに関する作業について、これまでに3度の作業単価の値上げを実現。
○新規に農福連携に取り組む福祉施設の増加に伴い、マニュアルを作成したことで、農業収益と施設の工賃向上に寄与。
○令和4年度には、新たに水耕栽培やセロリの出荷調整作業の支援を開始するなど、令和5年度の作業工賃総額は1,822万円と過去最高額を更新。

所在地 ▶香川県高松市元山町1193番地２　　連絡先▶TEL：087-813-1420
E-mail ▶Noami.Hideyuki@selpcenter.onmicrosoft.com
ウェブサイト▶http://www.yorokobi-selp.com/

【取組のプロセス】

きっかけ

県内の就労継続支援B型事業所の平均工賃が全国と比較して低いことや、農業者の高齢化により、県内農産物の生産量の維持・拡大が困難な状況であったことから、農福連携の取組を実施

昭和58年

障害者施設等での授産事業・地域福祉の発展を推進

平成8年

コーディネーターを中心に「共同受注」の展開

協議会の発足、NPO法人格の取得

○ 昭和58年、県内にある身体障害者施設及び知的障害施設の５施設を会員とした香川県授産施設協議会として発足。

○ 平成８年、香川県社会就労センター協議会へ名称変更。

○ 平成22年、法人格を取得し、特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会に。

共同受注窓口

農家と施設利用者の所得向上や工賃向上が、生きがいややりがいに繋がるよう、関係者は最善の努力を怠らないように

コーディネータは、他人に接する時言葉や態度は力まず肩の力を抜き、自然体で、誠心誠意その人に自分ができる全てのことを考え、実行することが大切

平成23年

各種県事業の活用

利用者の工賃向上を実現

共同受注窓口業務開始

○ 平成23年、障害者就労施設における受注促進事業を実施。共同受注窓口として業務を開始。

○ JAと共同でいちごやにんにく、温州みかんの生産において農福連携が可能か、試行的に障害者に作業を実施してもらった結果、にんにくの収穫作業で実現可能であることを確認。

○ 障害者がにんにくの収穫作業を十分に実施できるという事例は瞬く間に県内に広がり、農福連携の取組が拡大。

引きこもり当事者会による
レタスの定植作業

平成24年

各種事業の継続的取り組み

○ 平成24年（～平成26年）、香川県受注窓口機能強化推進事業を実施。

○ 平成26年、香川県障害者優先調達推進事業を実施。

○ 平成30年（～令和２年）、農作業支援強化事業を実施。

○ 令和元年～、農福連携事業を実施。

アスパラの定植作業

今後の展望

地元農家の作業支援は地元施設で

○ 地元農家への作業支援は地元の施設が参加し、不足なら近隣施設に応援依頼を行う体制を継続して整備。併せて、新規に農福連携に参入する施設を育成。

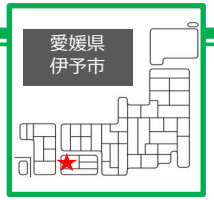
○ 一年をとおして何らかの作業依頼があれば、施設は安定した支援が実現でき、地域に貢献できることから、新たな農作業、農家を開拓。

青ねぎ洗浄・コンテナ投入作業

更新年度:R5

97 愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



地域の福祉団体や農福連携を実施する企業と連携して、障害者や高齢者と協働した農作業、カフェ運営、新商品開発を実施。全国で珍しい農業高校における農福連携の取組。

基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班
- 選定表彰：
  - ・令和２年ディスカバー農山漁村の宝 中国四国選定地区
  - ・えひめ地域づくりアワード・ユース2023　最優秀賞
  - ・第74回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞
  - ・ノウフク・アワード2023チャレンジ賞
- 主力商品：きくらげ鯛飯、きくらげつくね
- 取得認証等：ー

取組の概要

○地域との連携を目指した授業の一環として、「＃伊予農福連携プロジェクト」を生徒が自ら立ち上げ。

○伊予市内の福祉団体、ほっとネットいよしと連携し、障害者や高齢者に生き生きと仕事をしてもらうための「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催。地域食材使用のスイーツの考案、調理や盛り付けを行った。障害者・高齢者スタッフは接客担当として活躍。

○地域の施設が所有する畑、プランターを利用し施設利用者とともに気軽に楽しくをモットーに農福連携を実施。

○農福連携を進めている企業、株式会社和光ワールド、一般社団法人greensightと連携し、自然農法の米・きくらげ・大豆を栽培し、商品化・メニュー化を目指す活動を実施。

ほっとネットいよしと連携したカフェ

プランターでの野菜の栽培

ノウフクJASきくらげ商品化

体制図

愛媛県立伊予農業高等学校

連携

地域の施設

- ・地域の施設
- ・グループホーム土香里
- ・ワークハウス睦美
- ・就労継続支援Ｂ型事業所日光里
- ・小規模多機能ホームあんこ
- ・ほっとネットいよし

連携

企　業

- ・株式会社和光ワールド、
- ・一般社団法人greensight
- ・八戸協和水産株式会社

取組の成果

○イベントの際には障害者・高齢者スタッフに、最低賃金を支払っており、「達成感を得た」「また参加したい」と好評。

○施設利用者と一緒に野菜や花の栽培・収穫を行い、施設の食事に使用。

○ノウフクJASきくらげを利用したランチメニューを４種類考案し、令和５年９、10月の土日で1,000食を提供。また、青森県の水産企業と連携し農福連携商品の企画・製造を協議し、「きくらげ鯛飯」、「きくらげつくね」のレトルト食品の販売が決定。

所在地▶愛媛県伊予市下吾川１４３３
連絡先▶TEL:089-982-1225　E-mail:－
ウェブサイト▶ https://iyo-ah.esnet.ed.jp/

【取組のプロセス】

令和4年

きっかけ

農福連携を通して、地域課題である共生社会の実現に尽力したいとの思いから「＃伊予農福連携プロジェクト」を立ち上げ

障害者や高齢者との関わり

○ 伊予市内の福祉団体「ほっとネットいよし」と連携して「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を実施し障害者、高齢者スタッフと地域貢献。

「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」の様子

地域食材使用のスイーツを考案し、カフェでの販売を実施

地域の施設と農福連携活動（11月）

○ 地域の施設が所有する空いている畑とプランターを利用して施設利用者とともに気軽に楽しく農福連携をキーワードに野菜や花を栽培。収穫した野菜は施設の食事に使用。

プランターでの野菜の栽培

令和5年

企業との連携

○ 株式会社和光ワールドのきくらげ栽培作業に参加し、障害者と交流。

○ 八戸協和水産株式会社と連携しノウフクJASの認証を受けたきくらげを使用した「きくらげ鯛飯」「きくらげつくね」のレトルト食品を開発。

愛媛で唯一ノウフクJASを取得している（株）和光ワールドのきくらげの普及活動

道後のホテルにぎたつ会館でランチ販売

農福連携活動の発表

○ 農業高校の甲子園と呼ばれる日本学校農業クラブ連盟の競技会において、これまでの取組活動を発表し、四国大会で最優秀賞を受賞したことで全国大会に出場。

道後のホテル「にぎたつ会館」と連携しきくらげ使用メニューを４種考案

株式会社和光ワールド等と企業連携

今後の展望

「＃伊予農福連携プロジェクト」の拡大

○ 医療・保険分野での農福連携活動。

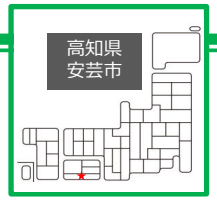
○ 園芸療法やユニバーサル農園の実施。

○ ノウフクJASきくらげを使用した商品開発を継続。

更新年度：R5

98 安芸市農福連携研究会

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



高知県の高い自殺率を低減させることを目的に「ここから東部ネットワーク会議」が平成25年に立ち上がったが、自殺対策以外にも対応できる体制整備が必要となったことから、生きづらさや障害者等も生きがいを持って生活できる社会の実現を目指し「安芸市農福連携研究会」が設立。

基本情報

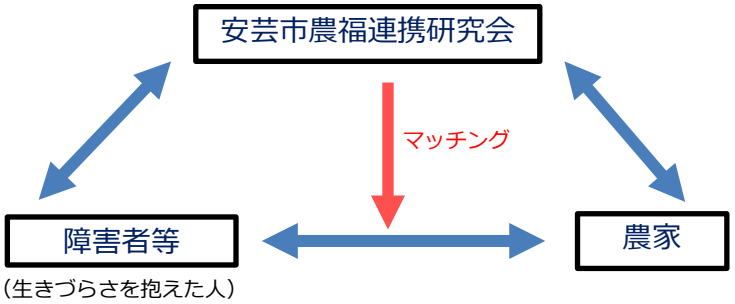
- 所在地：高知県安芸市
- 団体名：安芸市農福連携研究会
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
  審査員特別賞
- 主力商品：なす、ゆず
- 取得認証等：ー

事例や課題を共有するサミット

取組の概要

○毎月の定例会を通じて関係機関との情報交換を積極的に行うことで、障害者一人一人の状況に応じた必要な支援方法等の洗い出しを行っている。
○農福連携の取組に対する理解促進を目的に障害者理解についての講演や、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表を実施。
○講演会や研修会ですでに障害者等を受け入れている農家と受け入れていない農家を交えたグループ討議を行うことで、障害者等の受入農家数が増加。
○農作業の切り分けや、素人でもわかりやすく作業ができるような動画を作成するなど、誰もが積極的に農作業に参加できる仕組みづくりを構築。
○初めて農作業を行う人の多くがすぐに辞めてしまうケースもあったが、農業就労サポーターをJA高知県が雇用し、障害者等の作業や心のケア、農家への支援を行うことで、就労定着につながっている。
○農閑期の障害者の就労の受け皿を確保することを目的に一般社団法人こうち絆ファームが設立され、福祉事業所としてナスやオクラの栽培・収穫を実施。

体制図



取組の成果

○取組当初の平成30年度に農福連携の取組に参画している経営体は11戸であったが、令和５年度には約2.5倍の29戸に増加。障害者は取組当初に比べ約６倍の107名が就労・雇用されている。
（一般社団法人こうち絆ファームも含む）
○生活困窮から抜け出し200万円を超える貯金ができた利用者もいる。
○ハローワークで一般就労が難しいとされた方を関係機関やＪＡ高知県安芸地区の無料職業紹介所を通じて、受け入れ可能な農家に紹介し、農作業体験を行ったことで一般就労につながった。

所在地▶高知県安芸市幸町1-16
連絡先▶TEL:0887-34-8325　E-mail: aki-einokikaku@ja-kochi.or.jp
ウェブサイト▶http://ja-kochi.or.jp

【取組のプロセス】

高知県は全国でも自殺率が高く、その対策が喫緊の課題となっていた

平成23年

きっかけ

自殺対策のためのここから東部ネットワーク会議が発足され、会議を重ねることで関係機関の連携が深まり、自殺以外の課題にも対応できる体制を確立するため安芸市農福連携研究会を設立

平成25年に高知県安芸福祉保健所が「ここから東部ネットワーク会議（自殺予防）」を立ち上げ、多くの関係機関との連携を開始

会議を重ねるごとに自殺以外の課題にも対応できる体制が整備された

平成30年

安芸市農福連携研究会の発足

○ 平成30年、安芸市農福連携研究会が発足。以降、下記の取組を継続的に実施中。
・定例会を毎月開催し、関係機関との情報交換を積極的に実施。
・安芸市における農福連携の仕組みづくりと障害者理解についての講演、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表などを実施することで、取組に対する地域や関係者の理解を深める。
・県外への視察研修の実施及び他事業者の視察受け入れ。
・農業体験を実施し、農作業や集出荷場の作業を実際に体験してもらうことで就労定着を促進。

情報共有（毎月定例会）

高知県農業労働力確保対策事業を活用し「農福連携高知県サミットinあき」を開催

農業就労サポーターを導入

○ 令和元年、農業就労サポーターを導入。障害者等の心のケアや農家の支援を担うことで、就労定着につながっている。

雇用に向けた作業体験

高知県農業会議農福連携推進支援障害者等試行就労受入体験事業を利用し収穫体験

令和元年

一般社団法人こうち絆ファームが設立

○ 令和元年、生きづらさを感じる人たちに通年で仕事を作るために一般社団法人こうち絆ファームが設立され、福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。

○ 障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者など、63名が２か所の福祉事業所で農作業を実施。これまでに一般就労に８名が移行しており、過去にひきこもり状態であった１名は新規就農者として令和４年度から経営を開始。

農業就労支援サポーターの支援

一般社団法人こうち絆ファーム設立（令和元年）農閑期の受け皿へ

不登校の子どもを抱える家族を対象に収穫体験を実施ひきこもりを未然に防ぐ

今後の展望

台風の目となり活動継続へ

○ 障害者・ひきこもり状態にある者・生活困窮者・高齢者に加え、触法者の受け入れと再犯防止への取組も一部はじまる。

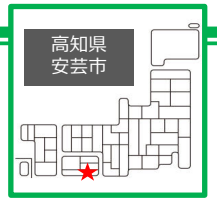
○ 安芸市から始まった「農福連携」が台風の目となり、県内各地域へ、さらには日本全国へ広がり「すべての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」に向け活動を継続していく。

意見交換会（農家と関係機関）

更新年度:R5

99 一般社団法人こうち絆ファーム

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



行政及び関係団体と連携し、最低賃金で働けない全ての人や、生き辛さを抱えた方々（ひきこもり状態にある者、触法者など）への支援を通じ、地域の課題解決に貢献。

基本情報

- 所在地：高知県安芸市
  高知県吾川郡いの町
- 団体名：一般社団法人こうち絆ファーム
  多機能型事業所「TEAMあき」就労継続支援B型事業所「TEAMいの」
- 選定表彰：
  - ・令和４年度ディスカバー農山漁村の宝
    中国四国地区　奨励賞
  - ・第13回地域再生大賞　優秀賞
  - ・第38回高知県地場産業大賞
    高知県地場産業賞
  - ・ノウフク・アワード2023フレッシュ賞
- 主力商品：ナス、オクラ、白芽芋、冬野菜
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

○こうち絆ファームは、安芸市農福連携研究会の発展形として、生きづらさを感じる人たちに通年で仕事を作るために令和元年に設立された福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。

○事業所では、こうち絆ファーム以外に近隣の25の農家から収穫したナスやオクラの袋、箱詰めも行っており、作業者に合わせた就労体系で１箱200円の出来高制で請け負う。

○20代～60代までの生きづらさを抱えた方々（障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等）63名が２か所の事業所で作業。

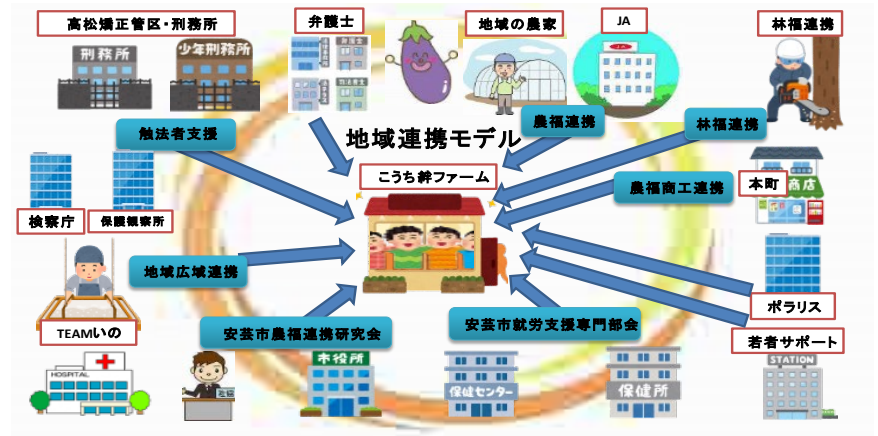
○農閑期（７月～９月）にはハウスをユニバーサル農園として市民や関係機関に開放し、ナス狩り収穫体験を実施。特別支援学校や放課後等デイサービスの子供たちに対する食育としても貢献。

ユニバーサル農園での収穫体験

ハウス内での作業をする利用者

ナスの袋詰め作業をする利用者

体制図



取組の成果

○生きづらさを抱えた多様な人材を受け入れ、３年間で一般就労に８名が移行し現在も定着。過去にひきこもり状態であった１名は新規就農として令和４年度から経営を開始。

○ふるさと納税の返礼品や企業からの発注が多くなるにつれ、より良い品質の良いものを提供しようと栽培管理、職員、利用者のモチベーション向上につながっていることもあり、開始した当初（令和２年）は、平均工賃月額が21,985円であったが、現在では31,286円となり、当初より約４割増加している。

所在地▶高知県安芸市本町3丁目10-35
連絡先▶TEL: 0887-37-9071　　E-mail: aki@kochi-kizuna.com
ウェブサイト▶ https://kochi-kizuna-farm.com/

【取組のプロセス】

平成26年

大阪府からIターンで農家を目指し高知県へ

きっかけ　**農業経営規模の拡大に伴い、障害のある親子を雇用したことから農福連携の取組が開始**

令和元年

一般社団法人こうち絆ファームを設立

○ 高知県は全国でも自殺率が高く、その対策が喫緊の課題であったことから、平成25年に高知県安芸福祉保健所が「ここから東部ネットワーク会議（自殺予防）」を立ち上げ、87の機関が連携、受け入れ先の農家として関わる。
○ 自殺以外の課題にも対応できる体制を整えるため、平成30年に安芸市農福連携研究会が発足され、生きづらさを感じる人の雇用先を増やしたいとの思いから、令和元年に一般社団法人こうち絆ファームを設立。

ナスの袋詰め作業

令和2年

自社農園での生産スタート（施設園芸ナス15ａ）

自社農園の規模拡大（施設園芸ナス50ａ）

多様な連携をスタート

○ 多機能型事業所TEAMあきを開所し、特別支援学校との連携、法務省と連携した触法者の受け入れ、高齢者通所サービス事業所との連携を開始。

冬野菜の種まき・苗おこし作業

令和3年

高松矯正管区内の矯正施設との意見交換会スタート

官民との農福商工連携がスタート

○ 安芸市商工観光水産課が策定した安芸市中心商店街振興計画に参加し、現状の課題や地域資源の洗い出し等についてワーキンググループで検討。
○ 安芸本町商店街で「軽トラマルシェ」を開催。大鍋でふるまう「ナス煮」会を開催し地域活性化に貢献。
○ 厚生労働省 生活困窮者モデル事業開始（地域連携モデル）。

軽トラマルシェ　ナス詰め放題

令和4年

高知県伊野町の依頼により農福連携を伊野町でスタート

県からの委託事業がスタート

○ 農業者と就労継続支援事業所の農作業受委託のマッチングの支援活動。

ナスの収穫体験

令和5年

更なる連携がスタート

○ 伊野町との連携による就労継続支援B型事業所TEAMいの開所
○ 清水寺住職より仏教界からの協力の申し出があり、自殺予防の取組の拡大として「仏福連携」をスタート。

清水寺との「仏福連携」

今後の展望

農福連携を通じて共生を目指し地域づくりに繋げる

各地での就労継続B型事業所の開設

○ 県域での水福連携の推進（令和６年度開始）。
○ 室戸市との連携によるTEAMむろと設立委員会設置。
○ 香美市・香南市・南国市との連携による農福連携コンソーシアム設立。

更新年度：R5